

プレゼンテーションをWEBで リアルタイムに配信・録画できるシステム

Speech PROJECT 慶應義塾大学 村井純研究室 Arch研究グループ 高橋 俊成 (Seibe TAKAHASHI) 2015/11/20

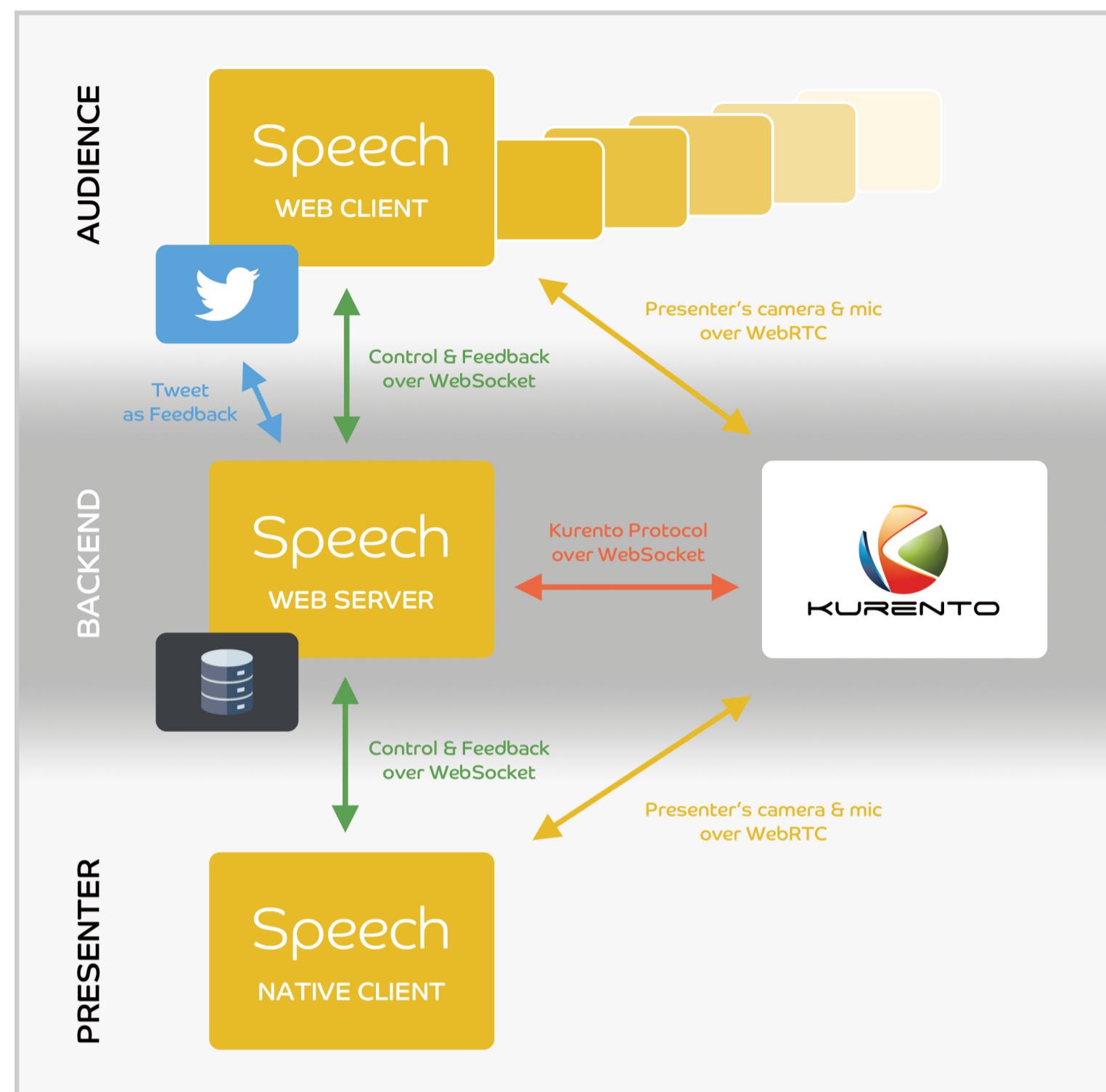
Arch



Speech では、WEB 上で共有されているスライド資料を Speech アプリケーションで選択するだけで、直ちにプレゼンテーションを WEB にブロードキャストできます。また、プレゼンテーションに聴衆として参加したいユーザーは、公開された Speech URL にアクセスするだけで直ちに参加できます。

Speech におけるプレゼンテーションのリアルタイム配信は、プレゼンターと聴衆との間で情報を共有・同期することで実現します。具体的には、スライド資料とそのアクティブなページ、プレゼンターの映像と音声、聴衆が書き込んだコメント等です。これらを同期することで、実際に会議室でプレゼンテーションした時に聴衆が得られる情報を WEB 越しに再現できます。

Speech は、配信された全ての情報を記録し、Speech WEB サイト上で再生することができます。つまり、これまでスライド資料しか共有できなかった、あるいは多大な編集コストをかけないと共有できなかったプレゼンテーションが、より理想に近い形で記録できます。これにより、個人でも優れたプレゼンターをオンラインで共有したり、過去の自分のプレゼンテーションを振り返ったり等が出来るようになります。



Speech がプレゼンテーションを民主化し、小規模組織や個人でも、世界にプレゼンテーションを届けられる環境を作ります

かつてプレゼンテーションは、会議室の閉じた環境で行われるものでした。やがてインターネットや WEB の発達でスライド資料をオンラインで共有できるようになりましたが、プレゼンテーションで重要なプレゼンターの声や身振り手振り、聴衆の反応などはそこに含まれませんでした。

できる限りリアルなプレゼンテーションを世界中に届けようと、プレゼンテーション全体をビデオで録画し、TV 番組のように編集・キュレーションした上で映像配信を行う組織もあります。しかし、これは十分な機材や人員を調達できる恵まれた組織にしかできないことで、そうではない組織や個人にとって、研究発表や製品説明、講演などの共有は簡単ではありません。

リアルなプレゼンテーションをインターネット越しに配信し、趣向を凝らしたスライドやプレゼンターの面白トークをリアルタイムに共有するのが「ソーシャルメディア時代の『プレゼンテーション』の楽しみ方」でしょう。そのような未来を現実にするために、手軽な WEB プrezentation 配信を実現しようとしているのが Speech プロジェクトです。

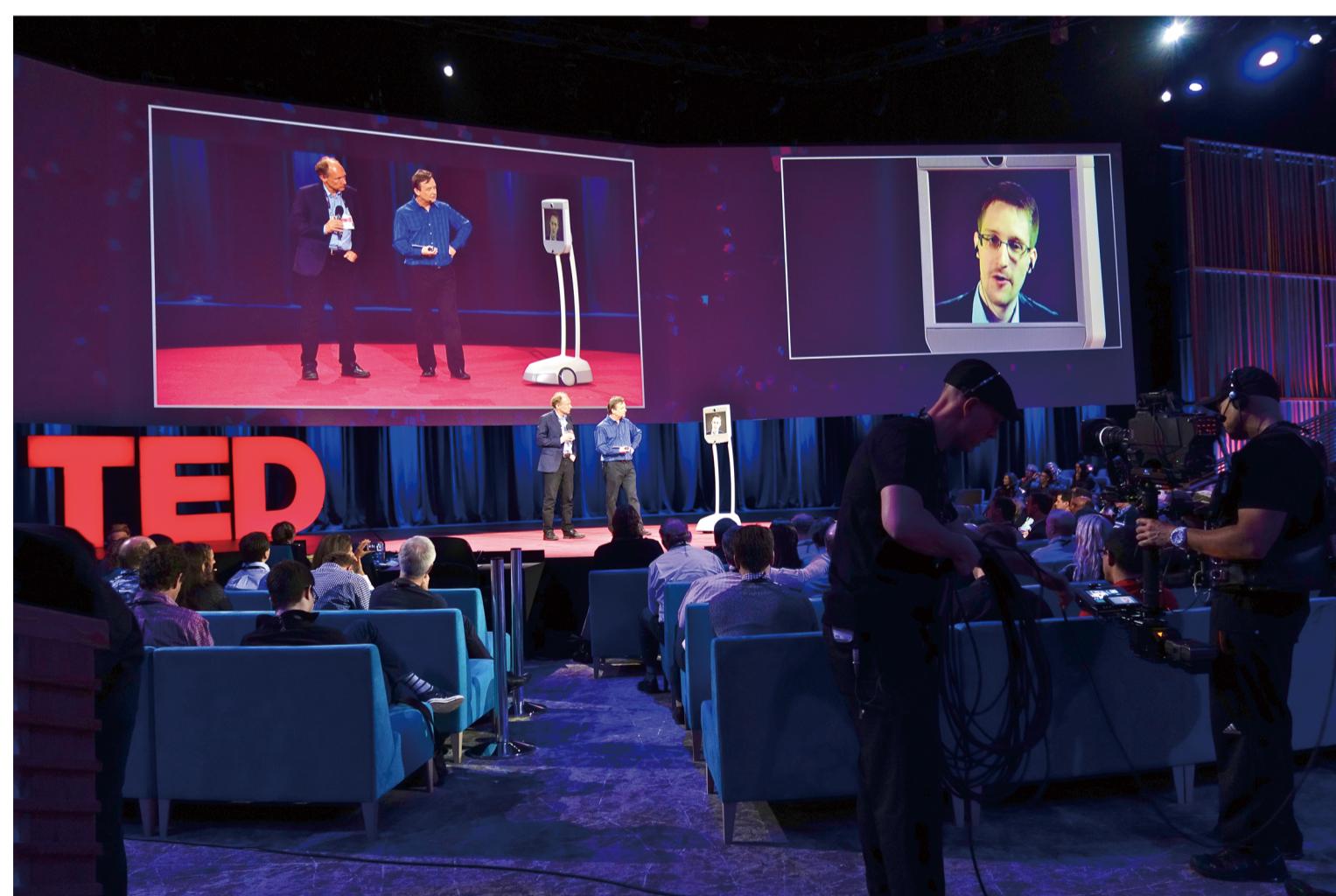


Photo by Steve Jurvetson [https://www.flickr.com/photos/44124348109@N01/13332430295]



SO| TED



<https://github.com/seibe/Speech>